

「タイの日本語教育」

国際交流基金日本語国際センター専任講師

八田直美 Naomi_Hatta@jpf.go.jp

1. キーワード

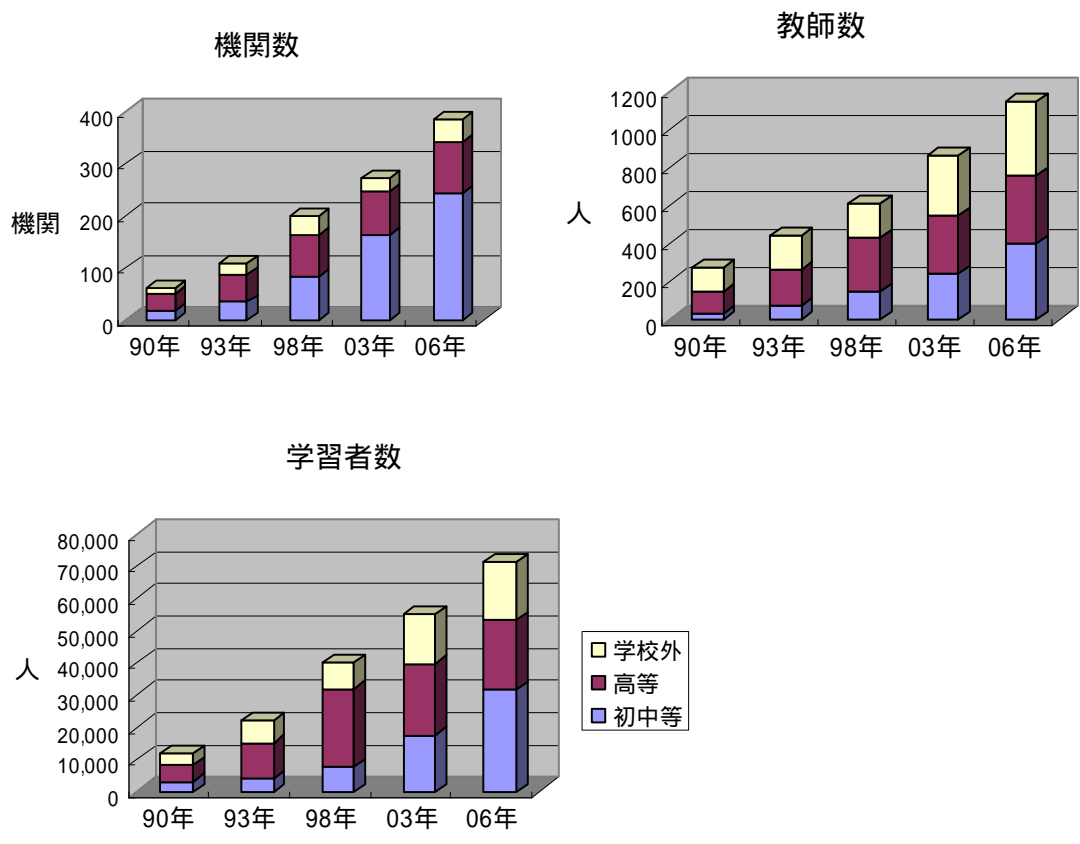
日本語能力を利用した就職 タイ人教師の確保 中等教育と大学の連携

2. 概況

(1) 2006年の機関数・教師数・学習者数

機関種別	機関数	教師数	学習者数
初・中等教育	243	398	31,679
高等教育	99	359	21,634
学校教育以外	43	396	17,770
合計	385	1,153	71,083

(2) 1990年～2006年の機関数・教師数・学習者数



3. 日本語教育を支える（支えてきた）もの

- ・ 歴史的・経済的に深い日本との関わり
 - アユタヤの日本人町、「山田長政」など約 600 年の交流の歴史、2007 年は日タイ修好 120 周年を迎える。
 - 日系企業、観光業を中心に社会に多様な日本語のニーズがある。（2006 年 1 月現在、盤谷日本人商工会議所には 1251 社が加盟し、従業員総数は約 43 万人。）
- ・ 日本製品・ポップカルチャー情報が多く、良好な対日感情
- ・ 専門性の高いタイ人教師・研究者の活躍
 - 日本語教育創成期に日本人教師が教えた学生が主に日本などへ留学し、学位を取得し、中核大学で教育や研究にあたる。
- ・ 教師全体の約 4 割を占める日本人教師

4. 日本語教育の発展

<年表>

タイの日本語教育の沿革	国際交流基金のかかわり
1947 年 ボピットピムク学校（高校）で日本語教育開始	
1964 年 タイ国元日本留学生協会附属日本語学校開校	
1971 年 チュラーロンコーン大学文学部日本語学科開講 （タイで最初の主専攻課程）	1972 年 国際交流基金設立
1974 年 第 1 回日本語弁論大会開催（日本国大使館・元 日本留学生協会等共催）	同年 日本語教育専門家の派遣開始
1981 年 高校の正式科目に採用	1980 年代 青年海外協力隊の派遣開始
1988 年 タイ国日本語教育研究会設立	1989 年 国際交流基金日本語国際セン ター開設
1994 年 タイ教育省・国際交流基金バンコク日本文化セン ター共催中等学校現職教員日本語教師新規養成講座開始 （～2003 年、2006 年～）	1991 年 国際交流基金バンコック日本 語センター開設
1998 年 日本語が大学入試科目になる。	1995 年 海外青年日本語教師の派遣開 始（2005 年よりジュニア専門家と改 称）
同年 タマサート大学で日本研究の大学院開設	1996 年～2005 年 タイ中等教育日本 語教師研修（日本語国際センター）
2004 年 中等教育用日本語教科書『あきこと友だち』完成	2000 年 中等教育用教科書制作に日本 語教育専門家を派遣。大学教師、高校教 師等による執筆委員会発足。
同年 コンケン大学教育学部日本語教師養成コース開設	2005 年 コンケン大学教育学部に日本 語教育専門家を派遣。
2008 年 バンコク日本語教育国際シンポジウム（開催予 定）	

「国際交流基金日本語教育国別情報：タイ」を参考に作成

(1) 発展の特徴

- ・ <創成期> 1960年代 ...各教育段階で日本語教育が本格的に始まる
- ・ <発展期> 1970年代～80年代 ...大学の主専攻課程開講、弁論大会開始、
教師会設立など
- ・ <充実期> 1990年代～ ...大学院の開講、中等教育の教師養成
- ・ 主な学習目的
日本文化への関心、将来の就職、日本語でのコミュニケーション、
大学入試や資格試験、仕事で必要など (2006年日本語教育機関調査より)
- ・ 日本語能力試験への高い関心(海外で4位、2007年は非漢字圏で最も多い1万
2千人の受験者、高校生から社会人まで幅広い、ここ10年は毎年受験者数が平均
20%以上の伸び)
- ・ 活発な教師会活動(地方別、対象者別などの8団体が活動中)

(2) 国際交流基金バンコク日本文化センターの役割

- ・ 教育省と共催で中等教育の教師養成(現職他教科教員を対象に養成研修)
- ・ 中等教育用教科書開発。教師研修や副教材開発へ発展
- ・ 周辺国支援(ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー対象)

5. まとめ

(1) 求められているもの

- ・ タイ人教師の確保
- ・ 教師の質の向上(研修、学位取得、研究)に対する支援
- ・ 中等教育と大学との連携(日本語既習者の進学、一貫性のある日本語教育)

(2) 今後の日本との関わり

- ・ 研究支援、研究者や教師の交流
- ・ ビジネス日本語、技術者の日本語など実業分野の日本語教育

6. 参考文献など

<参考文献>

- 生田守、北村武士(2006)「単一国研修における海外センターと国内の連携 タイ中等学
校日本語教師研修の場合」『国際交流基金日本語教育紀要』第2号 国際交流基金
- 上野栄三(2003)「タイにおける日本語教育活動の概況 I - 日本語教師現職者研修の概
況 - 」『海外における日本語教育活動の概況 - 現職者研修活動および学校外教育活動を中
心にして - 』日本語教育学会
- ウォラウト・チラソンバット(2001)「タイの言語政策 日本語教育の場合」『世界の
日本語教育(日本語教育事情報告編)』第6号 国際交流基金日本語国際センター
- 大竹啓司、熊野七絵(2006)「バンコク日本文化センター一般講座の変遷と再検討 タイ
の日本語教育における位置付けと役割」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本

- 語教育紀要』第3号 国際交流基金バンコク日本文化センター
古川和人、湯山佳代(1999)「後期中等日本語教育の量的拡大に関する事例研究 - タイ王国における経済・社会的背景との関連性についての一考察」『世界の日本語教育(日本語教育事情報告編)』第5号 国際交流基金日本語国際センター
国際交流基金バンコク日本文化センター(2004~2007)『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』1~4号
国際交流基金バンコク日本語センター(1998~2003)『バンコク日本語センター紀要』1~6号
野畑理佳、ウィパー・ガムチャントコーン(2006)「タイにおける中等学校日本語教員養成講座の概要と追跡調査 タイ中等教育における日本語クラスの現状」『世界の日本語教育』第16号 国際交流基金
八田直美(2007)「国際交流基金バンコク日本文化センターによるタイ人日本語教師のための『水曜研修』 ノンネイティブ教師研修における学び合いと研修成果の教育現場での実践」『国際交流基金日本語教育紀要』第4号 国際交流基金(印刷中)
ブッサバー・バンチョンマニー、プラパー・セートーンスック、今枝亜紀(2005)「タイの中等教育用日本語教科書作成プロジェクト」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第2号 国際交流基金バンコク日本文化センター
プラニー・チョンスッチャリットタム(2004)「タイ国後期中等教育のための日本語シラバス」『世界の日本語教育(日本語教育事情報告編)』第7号 国際交流基金日本語国際センター

<教材>

- 国際交流基金バンコク日本文化センター(2004)『あきこと友だち』1~6 Kinokuniya, Thailand(音声CD付)
(2004)『あきこと友だち Workbook』1+2、3+4、5+6 Kinokuniya, Thailand
(2004)『あきこと友だち Teachers Manual』1~6(タイ語)(非売品)
(2007)『あきこと友だち 単語集』Kinokuniya, Thailand
(2007)『あきこと友だち テスト問題集』(非売品)



資料：タイの日本語教育マップ（国際交流基金バンコク日本文化センターを中心に。2007年5月現在）

